

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	キッズサポートていだ 南栄教室		公表日		2026年2月27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100		・活動内容によってテーブルの配置を移動させ配置を変えるなど空間づくりを行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100		・基準に応じ、適切に配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100		・イラストで名示を行い、子どもたちの動線を考えながら配置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100		・毎日掃除、消毒を徹底している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		・奥の個室をクールダウンできる場所として子ども達にも伝え使用できる状態にしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100		・担当者会議をとおして職員の意見をすり合わせながら、モニタリング表や目標の設定を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・業務改善が必要な事項は速やかに対応を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		・毎日の申し送り(ミーティング)時や、帰りの送迎後の日報、ケア記録記入時に情報共有している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		・月2回事業所内研修を行っています。	・全員参加しない研修もあるため、その後情報共有は確実にやっていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100		・職員全員の目線で児童に応じた意見を出し合っている。 ・連絡アプリの記入	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		・個別支援計画の見直しの時期に合わせて、支援に関わる職員全体で担当者会議を開催。子どもの状況、ニーズの把握、今後の課題等	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		・支援についての取り組みは共通認識できるようにミーティングなどで周知、支援について話し合い一貫性を持つようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		・連絡アプリの活用と、個別ファイルにも記録を作成している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		・日常生活訓練、SST、作業学習、運動療育、学習療育、自然体験、野外活動など様々な療育の中で、個別支援計画に沿いながら課題設定を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		・利用者の様子を元に全員で話し合いを行い決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		・複数のプログラムを用いて、利用者に合わせて組み合わせながら行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100		・児童発達の利用の際は個別。長期休み時に放デイの利用者とともに集団活動の場として活動しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		・打ち合わせをするが、発達段階やその日の利用者の様子の把握が難しい時がある。	・利用者の下校時の様子や学校からの伝達事項など、連絡ツールやノートに記載することを徹底し、必ず全員が目を通して情報を共有できるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		・記録を取るが、継続支援に繋がりにくい。	・次の日のミーティング等で振り返りを行いながら全員で支援について情報共有することを徹底していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100		・就学時期前には、連携が出来る場合とそうでない場合があります。出来るだけ相互理解を図りたいと考える。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		100		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		100		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		・直接会う機会が少ない為、連絡アプリメッセージや電話にて情報共有をすることを大切にしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100		・保護者ネットワークていーだカフェの開催等。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		・見学時には大まかに。契約時には細かく丁寧に説明している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		・保護者ネットワークていーだカフェで保護者同士懇談会を設けている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100				

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		・運営アプリメッセージのやり取りや、面談での声掛けを行っている。	・運営アプリのやり取りだけでなく、送迎時などご家族の様子を伺いながら、小さなサインも見逃さないように対応することを心掛ける。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100		・保護者同士の交流などを目的に家族参加型の秋祭り、ていーだカフェの開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		・カスハラ研修に参加し、周知した。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100	・地区会には入会し、祭りの協賛をしている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		・連絡帳を通して、訓練等の様子をお伝えしている。	・現在は事後報告の為、実施前にも報告の必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100			・するように努めているが、年間計画とずれて実施する場合がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100			・該当児なし
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100			・該当児なし
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		・緊急連絡先等の把握。速やかな連絡が出来るように連携を図っている。	・適宜連絡先の更新など密に連携を図っていくことが必要である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		・小さな出来事もおろそかにせず、ヒヤリハットとして受けていく必要がある。 ・ヒヤリハットを記入後に全体で共有し話し合う場を設けて行く。	・小さな出来事もおろそかにせず、ヒヤリハットとして受けていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		・入職時と年1回研修を受けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100		・契約時の面談の際に説明し、同意書にサインを頂いている。		